

平成23年度採択プログラム 中間評価調書
 博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表]

機関名	東京工業大学	整理番号	C03
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) みしま よしなお 氏名・職名 三島 良直 (東京工業大学学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) せきね みつお 氏名・職名 関根 光雄 (東京工業大学 大学院生命理工学研究科・研究科長)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) あきやま ゆたか 氏名・職名 秋山 泰 (東京工業大学 大学院情報理工学研究科計算工学専攻・教授)		
4. 類型	C <複合領域型(生命健康)>		
5.	プログラム名称	情報生命博士教育院	
	英語名称	Education Academy of Computational Life Sciences	
	副題	情報科学を使いこなせる生命健康イノベーションリーダーの養成	
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(工学)、博士(理学)、博士(学術)・情報生命博士教育課程		
7. 主要分科	(① 生物科学) (② 情報学フロンティア) (③ 人間情報学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
8. 主要細目			
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	大学院生命理工学研究科: 生命情報専攻、分子生命科学専攻、生体システム専攻、 生物プロセス専攻、生体分子機能工学専攻 大学院情報理工学研究科: 計算工学専攻、数理・計算科学専攻、情報環境学専攻(H25.11.1) 大学院総合理工学研究科: 知能システム科学専攻、物理情報システム専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
該当なし			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
該当なし			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			
該当なし			

(機関名: 東京工業大学 類型: 複合領域型(生命健康) プログラム名称: 情報生命博士教育院)

14. プログラム担当者の構成 計 70 名					
外国人の人数		10 人	[14.3%]	女性の人数	
				6 人	[8.6%]
プログラム実施大学に属する者の割合 [77.1 %]					
プログラム実施大学に属する者			54 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			49 人	そのうち、大学等以外に属する者	
				16 人	10 人
15. プログラム担当者					
※他の大学等と連携した取組(共同実施を含む)の場合: 基幹大学に所属するプログラム担当者の割合 [%]					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
(プログラム責任者) 関根 光雄	セキネ ミツオ		大学院生命理工学研究科長、 生命理工学研究科分子生命科学専攻・教授	核酸医薬創成 理学博士	学位プログラム全体の統括 メンター部会副会長、グループ型問題解決演習WG委員
(プログラムコーディネーター) 秋山 泰	アキヤマ ユカ		大学院情報理工学研究科 計算工学専攻・教授	並列生物情報処理 工学博士	学位プログラム全体の業務の統括、評価資料作成WG委員、カリキュラム部会委員、カリキュラム設計WG委員、奨励金審査WG委員 (H25. 4. 1追加)、夏の学校WG委員 (H25. 4. 1追加)
徳永 万喜洋	トクナガ マチ		大学院生命理工学研究科 生命情報専攻・教授	1分子生物 理学博士	生命コーディネーター、国際コンテストWG委員長、評価資料作成WG委員、カリキュラム部会委員、奨励金審査WG委員 (H25. 4. 1追加)
山村 雅幸	ヤマムラ マサユキ		大学院総合理工学研究科 知能システム科学専攻・教授	システム生物学 工学博士	情報コーディネーター、カリキュラム部会副会長、広報部会副会長、カリキュラム設計WG委員長、メンター部会委員、奨励金審査WG委員 (H25. 4. 1追加)
岩崎 博史	イワサキ ヒロシ		大学院生命理工学研究科 生体システム専攻・教授	DNA修復、遺伝病 医学博士	運営委員、国際連携部会副会長、グループ型問題解決演習WG委員、夏の学校WG委員長 (H25. 4. 1追加)
一瀬 宏	イチノセ ヒロシ		大学院生命理工学研究科 分子生命科学専攻・教授	脳神経医療 医学 博士、 理学博士	カリキュラム部会委員
梶原 将	カジハラ スム		大学院生命理工学研究科 共通講座・教授	抗真菌薬 理学 博士	運営委員、キャリアパス形成・海外派遣部会副会長、広報部会副会長、カリキュラム部会副会長、カリキュラム設計WG委員
林 宣宏 (H25. 4. 1追加)	ハヤシ ノブヒロ		大学院生命理工学研究科 分子生命科学専攻・准教授	蛋白質科学、生物 物理学、分子生物 学 理学博士	国際コンテストWG委員
相澤 康則 (H25. 11. 1追加)	アイザワ ヤスリ		大学院生命理工学研究科 分子生命科学専攻・講師	分子生物学、ゲノ ム科学 博士(薬 学)	国際連携部会委員、夏の学校WG委員
清尾 康志 (H26. 4. 1交替)	セイオ コウジ		大学院生命理工学研究科 分子生命科学専攻・准教授	生物有機化学 博士(理学)	該当なし
田中 幹子	タナカ ミコ		大学院生命理工学研究科 生体システム専攻・准教授	脊椎動物発生進化 博士(理学)	教員メンター、奨励金審査WG委員 (H25. 4. 1追加)
本郷 裕一	ホンゴウ ユウイチ		大学院生命理工学研究科 生体システム専攻・准教授	環境ゲノム 博士(理学)	国際連携部会委員
工藤 明	クドウ アキラ		大学院生命理工学研究科 生命情報専攻・教授	組織再生 薬学博士	国際連携部会副会長
伊藤 武彦	イトウ タケヒコ		大学院生命理工学研究科 生命情報専攻・教授	ヒトゲノム 博士(理学)	運営委員、グループ型問題解決演習WG委員長
黒川 顕	クロカワ ケン		大学院生命理工学研究科 生命情報専攻・教授	ヒトゲノム 博士(理学)	カリキュラム部会委員
山口 雄輝	ヤマグチ ユウキ		大学院生命理工学研究科 生命情報専攻・教授	転写制御 博士(工学)	異文化コミュニケーションWG委員
十川 久美子	ソカワ クミコ		大学院生命理工学研究科 生命情報専攻・准教授	免疫 博士(情報科学)	グループ型問題解決演習WG委員、国際コンテストWG委員 (H25. 4. 1削除)
山田 拓司 (H25. 7. 1追加)	ヤマダ タクジ		大学院生命理工学研究科 生命情報専攻・講師	微生物メタゲノム、バ イオインフォマティク ス 博士(理学)	グループ型問題解決演習WG委員
中村 聡	ナカムラ サトシ		大学院生命理工学研究科 生物プロセス専攻・教授	極限環境微生物 工学博士	運営委員、メンター部会委員、奨励金審査WG委員 (H25. 4. 1追加)
三原 久和	ミハラ ヒサカズ		大学院生命理工学研究科 生物プロセス専攻・教授	ペプチド工学 理学博士	キャリアパス形成・海外派遣部会委員
和地 正明	ワチ マサアキ		大学院生命理工学研究科 生物プロセス専攻・教授	有用微生物 農学博士	教員メンター
蒲池 利章	カマチ トシアキ		大学院生命理工学研究科 生物プロセス専攻・准教授	光タンパク工学 博士(工学)	運営委員、メンター部会副会長、グループ型問題解決演習WG委員、奨励金審査WG委員長 (H25. 4. 1追加)
廣田 順二	ヒロタ ジュンジ		大学院生命理工学研究科 生物プロセス専攻・准教授	分子神経生物学 博士(工学)	教員メンター
櫻井 実	サクライ ミル		大学院生命理工学研究科 生体分子機能工学専攻・教授	計算化学 工学博士	国際コンテストWG委員
占部 弘和	ウラベ ヒロカズ		大学院生命理工学研究科 生体分子機能工学専攻・教授	創薬化学 理学博士	カリキュラム設計WG委員、国際連携部会委員

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
小林 雄一	コバヤシ ユウイチ		大学院生命理工学研究科 生物プロセス専攻・教授	創薬合成 工学博士	メンター部会委員
上野 隆史 (H25. 4. 1追加)	ウエノ タカフミ		大学院生命理工学研究科 生体分子機能工学専攻・教授	生物無機化学・生 体関連化学 博士 (理学)	国際連携部会委員
田口 英樹 (H26. 4. 1交替)	タグチ ヒデアキ		大学院生命理工学研究科 生体分子機能工学専攻・教授	蛋白質科学 博士 (理学)	該当なし
大隅 良典	オオスミ ヨシノリ		フロンティア研究機構 特任教授	オートファジー 理学博士	教員メンター
鈴木 崇之 (H24. 4. 2追加)	スズキ タカシ		大学院生命理工学研究科 共通バイオフロンティア講座・准教授	発生神経生物学 博士 (理学)	国際連携部会委員、夏の学校WG委員
杉山 将	スギヤマ マサシ		大学院情報理工学研究科 計算工学専攻・准教授	機械学習 博士 (工学)	異文化コミュニケーションWG副委員長、キャリア パス形成・海外派遣部会委員
関嶋 政和	セキジマ マサカズ		大学院情報理工学研究科 計算工学専攻・准教授	分子シミュレ ーション 博士 (農学)	運営委員(H24. 11. 1)、メンター部会委員、キャリアパス 形成・海外派遣部会委員、広報部会委員
篠田 浩一 (H26. 4. 1交替)	シノダ コウイチ		大学院情報理工学研究科 計算工学専攻・教授	音声・映像理解 博士(工学)	該当なし
藤井 敦 (H26. 4. 1交替)	フジイ アツシ		大学院情報理工学研究科 計算工学専攻・准教授	自然言語処理 博士(工学)	該当なし
松岡 聡	マツオカ サトシ		大学院情報理工学研究科 数理・計算科学専攻・教授	スーパーコン ピューティング 博士 (理学)	国際連携部会委員
渡辺 治 (H24. 4. 2交替)	ワタナベ オサム		大学院情報理工学研究科 数理・計算科学専攻・教授	計算論的学習理論 工学博士	運営委員、国際連携部会副部会長、国際コンテ ストWG委員
天谷 賢治 (H25. 11. 1追加)	アマヤ ケンジ		大学院情報理工学研究科 情報環境学専攻・教授	計算力学、逆問題 博士 (工学)	カリキュラム部会委員
八木 透 (H25. 11. 1追加)	ヤギ トオル		大学院情報理工学研究科 情報環境学専攻・准教授	神経工学 博士 (工学)	キャリアパス形成・海外派遣部会委員
中尾 裕也 (H25. 11. 1追加)	ナカオ ヒロヤ		大学院情報理工学研究科 情報環境学専攻・准教授	非線形ダイナミク ス、数理生物学博 士 (理学)	カリキュラム部会委員
小長谷 明彦	コナガヤ アキヒコ		大学院総合理工学研究科 知能システム科学専攻・教授	生命医学情報学 博士 (工学)	キャリアパス形成・海外派遣部会委員
長橋 宏	ナガハシ ヒロシ		大学院総合理工学研究科 知能システム科学専攻・教授	医用画像処理 工学博士	カリキュラム部会委員、グループ型問題解決演 習WG委員
木賀 大介	キガ ダイスケ		大学院総合理工学研究科 知能システム科学専攻・准教授	合成生物学 博士 (理学)	グループ型問題解決演習WG副委員長、国際コン テストWG副委員長、国際連携部会委員
小野 功	オノ イチ		大学院総合理工学研究科 知能システム科学専攻・准教授	進化計算 博士 (工学)	グループ型問題解決演習WG委員、国際連携部会 委員
青西 亨 (H25. 4. 1交替)	アオニシ トオル		大学院総合理工学研究科 知能システム科学専攻・准教授	理論神経科学 博士 (工学)	カリキュラム部会委員
内川 恵二 (H25. 4. 1追加)	ウチカワ ケイジ		大学院総合理工学研究科 物理情報システム専攻・教授	視覚情報認識、色覚・ 視覚的注意、心理物理 学 工学博士	運営委員
小池 康晴	コイケ ヤスハル		大学院総合理工学研究科 物理情報システム専攻・教授	ブレインマシンイ ンタフェース 博士 (工学)	運営委員、キャリアパス形成・海外派遣部会副部会長、 カリキュラム部会委員、カリキュラム設計WG委員
小西 史一 (H25. 4. 1追加)	コニシ シカズ		情報生命博士教育院・特任准教授	バイオインフォマティクス、 ハイパフォーマンスコン ピューティング 博士 (工学)	広報部会委員、グループ型問題解決演習WG委 員、夏の学校WG委員
鮎川 翔太郎(H25.4.1追加)	アユカワ ショウタロウ		情報生命博士教育院・特任助教	合成生物学 博士 (工学)	カリキュラム設計WG委員、国際コンテストWG委 員、夏の学校WG委員
金森 功吏 (H25. 4. 1追加)	カネモリ タカシ		情報生命博士教育院・特任助教	生物有機化学、光 化学 博士 (理 学)	メンター部会委員、キャリアパス形成・海外派遣部会委 員、カリキュラム設計WG委員、夏の学校WG委員
黒川 裕美子(H25.4.1追加)	クロカワ ユミコ		情報生命博士教育院・特任助教	DNA修復 博士 (工学)	広報部会委員、グループ型問題解決演習WG委 員、夏の学校WG委員
Dragomirka Jović (H25. 4. 1追加)	ドラゴミルカ ヨビッチ		情報生命博士教育院・特任助教	生命情報学 博士 (工学)	広報部会委員、異文化コミュニケーションWG委員、グ ループ型問題解決演習WG委員、夏の学校WG委員
千葉 峻太郎(H25.4.1追加)	チバ シュンタロウ		情報生命博士教育院・特任助教	生物物理、計算化 学 博士 (工学)	広報部会委員、異文化コミュニケーションWG委 員、国際コンテストWG委員、夏の学校WG委員
伊藤 栄紘 (H25. 4. 1追加)	イトウ ヒデアキ		情報生命博士教育院・特任助教	生体機能関連化学 博士 (工学)	メンター部会委員、カリキュラム設計WG委員、 奨励金審査WG委員、夏の学校WG委員
松崎 由理 (H26. 4. 1追加)	マツザキ ユリ		情報生命博士教育院・特任助教	システム生物学 博士(学術)	該当なし
塚本 芳昭	ツカモト ヨシアキ		財団法人バイオインダストリー協会・専務理事	バイオ系企業マネ ジメント 工学修士	運営委員、メンター部会委員
南海 浩一	ナンカイ ヒロカズ		株式会社ジーンデザイン・プロセス開発部 部長	遺伝子創製 博士 (工学) 博士 (農学)	キャリアパス形成・海外派遣部会委員

(機関名：東京工業大学 類型：複合領域型(生命健康) プログラム名称：情報生命博士教育院)

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
江部 康平	エベ コウヘイ		オリンパスソフトウェアテクノロジー株式会社・取締役部長	精密機器制御、画像解析 学術修士	運営委員、国際コンテストWG委員
志賀 利一	シカ トシカズ		オムロンヘルスケア株式会社 新規事業開発センター・技術戦略グループリーダー	医用電子工学 博士(工学)	国内インターンシップへの助言
高橋 修一郎	タカハシ シュウイチロウ		株式会社リバネス・代表取締役 COO	教育システム開発 博士(生命科学)	国際コンテストWG委員
末水 洋志	スミス ヒロシ		財団法人実験動物中央研究所・部長	バイオメディカル 研究 博士(保健学)	キャリアパス形成・海外派遣部会委員
折田 正弥 (H24.11.7追加)	オリタ マサヤ		アステラス製薬株式会社 研究本部化学研究所リード化学研究室・室長	構造生物学、計算 化学、分析化学 博士(農学)	キャリアパス形成・海外派遣部会委員
Jan Ellenberg	ヤン エレンベルグ		EMBL(欧州分子生物学研究所)・Coordinator (ドイツ)	細胞生物学 Ph. D.	海外インターンシップへの助言
Hendrik W. van Veen	ヘンドリック ファン ゲイン		Department of Pharmacology, University of Cambridge Senior Lecturer (英国)	薬理学 Ph. D.	キャリアパス形成・海外派遣部会委員
Richard Giegé	リチャード ジーゼ		CNRS, IBMC(細胞分子生物学研究所)・ Director(フランス)	RNA分子生物学 Ph. D.	国際連携部会委員(夏の学校)
Benoit Arcangioli	ベノア アルカンギオリ		Pasteur Institute / University Paris・ Professor(フランス)	染色体分子生物学 Ph. D.	キャリアパス形成・海外派遣部会委員
Arnold J. Berk	アールト バーク		UCLA Molecular Biology Institute Distinguished Professor(米国)	細胞周期制御 Ph. D.	国際連携部会委員(夏の学校)
Patrick Sung	パトリック サン		Yale University Professor & Chairman(米国)	相同組換え Ph. D.	キャリアパス形成・海外派遣部会委員
Pyong Woo Park	ピョン ウー パク		Children's Hospital, Harvard Medical School Associate Professor(米国)	小児呼吸疾患 Ph. D.	海外インターンシップへの助言
Linda Griffith	リンダ グリフィス		MIT Center for Gynepathology Research Director(米国)	細胞組織工学 Ph. D.	国際連携部会委員
Patrick T. Hughes	パトリック ヒュース		Bioedit Ltd.・Owner(英国)	科学技術英語 Ph. D.	異文化コミュニケーションWG委員

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

本プログラム「**情報生命博士教育院 ～ 情報科学を使いこなせる生命健康イノベーションリーダーの養成**」では、21 世紀の社会を支える生命健康科学を牽引するために、**生命科学の一流の専門家でありながら最新の情報科学を道具として使える人材、または情報科学の一流の専門家でありながら生命科学の方法論と思考を理解する人材を養成**する。選抜された生命系の学生に対して情報科学の基盤知識と実践の教育を、情報系の学生に対しては生命科学の基盤知識と実践の教育をそれぞれ行うのみならず、これら**背景の異なる学生がチームを組んで様々な問題解決に挑戦**することにより、異分野の専門家が言葉を探り合いながら協調し、互いの強みを理解し、成果に到達する体験を繰返し共有する。

現在、世界的な健康長寿社会の実現に向けて、人々の Quality of Life の向上を支えるために様々な技術が結集しつつある。創薬、食品、化学、医療機器・診断等の分野は互いに連携しあい、そこに IT 化や精密計測技術が融合して新たな研究開発の潮流、新たな市場の可能性が高まっている。その変化は単なる自動化・IT 化に留まらず、大量データからの推論や、生体や細胞をシステムとしてとらえた演繹的シミュレーション等、生命科学の方法そのものに対する根本的な革新のうねりになりつつある。

しかし、我が国においては生命系と情報系の教育は学部教育時点から大きく分断されており、複合領域で柔軟に活躍できる人材を組織的に養成することは行われてこなかった。小規模な学際分野での人材養成プロジェクトは存在したが、社会がまさに要求する“生命健康イノベーション”を実現するにはライフサイエンスの広い領域において、情報科学を使いこなせるリーダーを輩出する必要がある。

そこで、本プログラムでは東京工業大学の持つ総合力を活かし、生命と情報の複合領域を目指す博士課程学生に、従来の大学院教育だけでは不足しがちであった以下の3つの能力を涵養するための機会と経験を効率的に与え、次世代の“生命健康イノベーション”を担うリーダー人材として輩出する。

1. **生命科学と情報科学の両者を理解する力**を持つこと
 - 【I 型人材養成 基盤科目・先端科目による複合領域教育】
“π 型”を目指す前に、まず深い専門性を確保した“**I (ガンマ) 型人材**”を養成する
2. **自ら問題を発見し、大量の情報の中からその本質を見抜き、正しい決定をする力**を持つこと
 - 【異分野学生が組むグループ型問題解決演習】
【“生命健康国際夏の学校”を学生が海外と連携して自主企画】
【バイオ版のロボコン“ビジネスプラン国際コンテスト”の開催】
3. **優れた異文化コミュニケーション能力**を磨くこと
 - 【プロフェッショナルな講師による異文化コミュニケーション科目】
【博士後期課程では海外協力機関へのインターンシップを全員に必修化】
【博士課程修了までに TOEIC750 点以上、など外部試験を活用した質の保証】

さらに学生のキャリアパス形成を支援するため、【修士課程でのインターンシップの全員必修】や、【産業界若手メンター制度】により産業界の卓越した研究者を短期招聘した学生指導などを行う。

本提案の優位性として、以下の諸点が挙げられる

・生命と情報の複合領域で活躍できるリーダー人材を養成するにあたり、**安易に中間的な人材を養成するのではなく、従来の深い専門性を確保した上で、さらに第二の能力を養成することを真剣に提案**している。この設計の議論を通じて、我々は“**I 型**”人材という考え方に到達した。東京工業大学の生命系、情報系の高度な専門教育の課程に、さらにプラスの訓練を加えることに徹している。

・本提案は**生命健康に関わる広いライフサイエンスを対象**としており、東工大の生命理工学研究科の全専攻が参加している。小規模な特殊教育を行うのではなく、従来の教育の専門性を縦軸として、研究科をまたいだ横軸の協力を導入することにより、大規模な複合領域教育を組織的に実現する。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

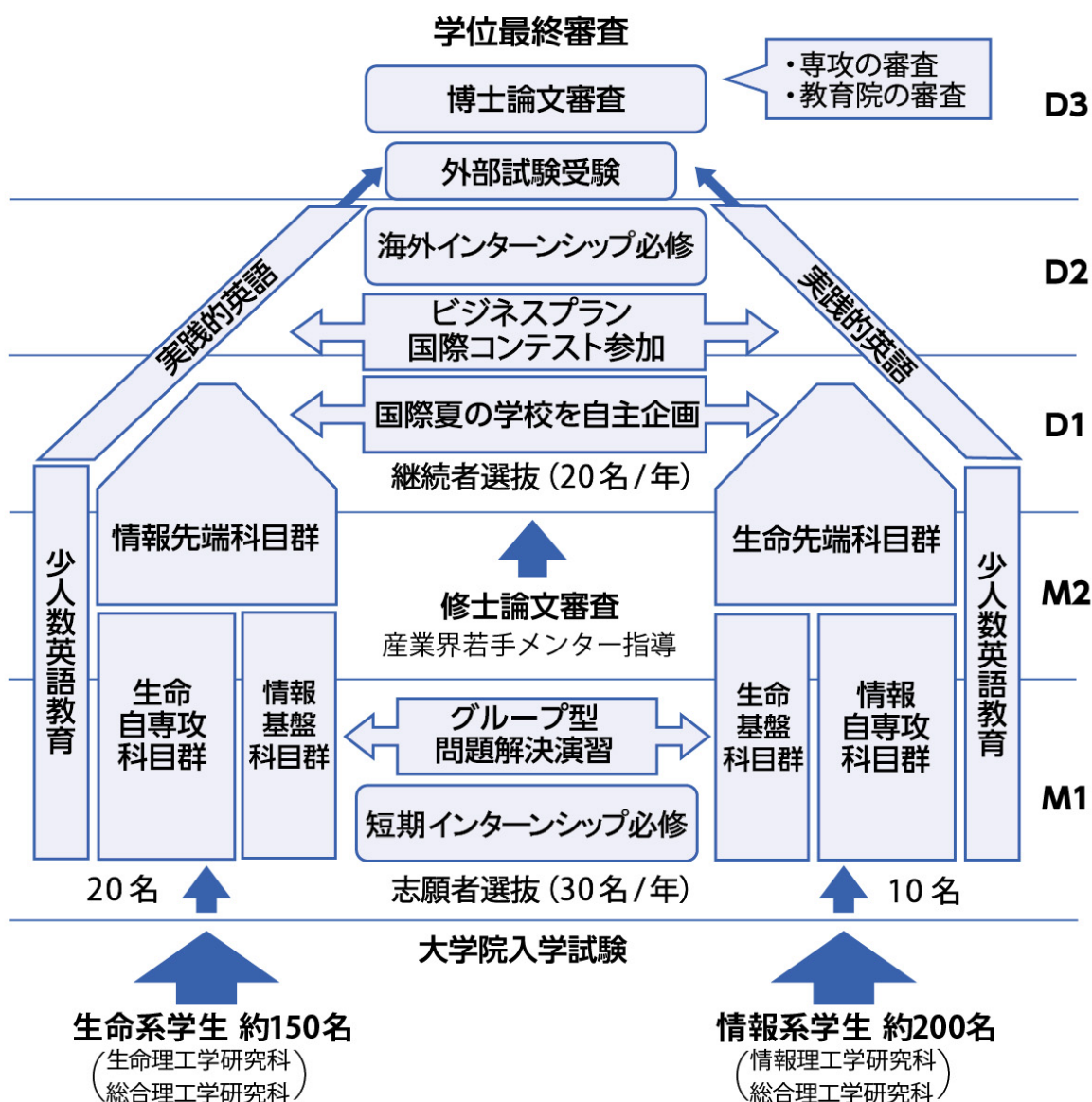
創業、食品、化学、医療機器・診断、健康などに関わる産業界・官界・学界



“Γ (ガンマ) 型人材”の輩出

20名/年
生命系15名
情報系 5名

博士号取得+情報生命博士教育課程の修了



本学位プログラムに選拔された学生には、自らの深い専門性をきちんと確保した上で、第二の専門分野の知識と柔軟なコミュニケーション能力を獲得させ、複合領域でリーダーシップを発揮する“Γ (ガンマ) 型人材”として輩出する。本学位プログラムの修養年限は5年であり、基本的に編入は認めない。各学生には教員メンターおよび産業界若手メンターによる緊密な指導が与えられ、達成度に応じてプログラムの継続の可否や奨励金の等級が毎年判定される。

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	東京工業大学	整理番号	C03
プログラム名称	情報生命博士教育院		
プログラム責任者	関根 光雄	プログラムコーディネーター	秋山 泰

(評価決定後公表)

(総括評価)

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

生命科学と情報科学の両方を理解し一方の専門性を深めたΓ型人材養成という明確な目標を掲げ、体系的なカリキュラムの整備とともに、グループ型問題解決演習、異文化コミュニケーション科目、学生主体で行う国際夏の学校など特色ある取組がなされており、専門の枠を越えて協働することの重要性を理解した学生が育ちつつあり、リーダーを養成する学位プログラムが確立していると評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性、グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、Γ型人材を養成するために、年齢構成や産業界出身者の活用などが考慮された参加教員によるメンター制度や産業界若手メンター制度を設け、きめ細かい学生指導がなされており、その結果、特に生命系のΓ型人材養成では、従来のような研究者志向だけではなくベンチャー起業を志すなど学生の意識変化が感じられる。今後はさらに幅広く産学官民の各界で、また国内だけでなく国際的に活躍するグローバルリーダーの養成を目指すことが望まれる。

優秀な学生の獲得については、生命科学の分野で情報科学を理解できるΓ型人材は社会的にもニーズが高く、本プログラムには生命系から優秀な学生が多く参加している。一方、情報科学の分野において生命科学は一つの応用分野に過ぎず、情報系から参加している学生数は少ない。当初計画のように生命系Γ型教育と情報系Γ型教育を同列に扱うのではなく、両者のバランスを見直す必要がある。同時に生命系、情報系いずれの学位審査においても、世界に通用する確かな質保証システムの構築を期待する。

事業の定着・発展については、大学として、学内の他のプログラムも含めた支援体制が確立している。事業の支援期間終了後の計画についても大学全体で具体的な検討がなされ、学部・大学院教育制度改革にリーダー教育を組み込むことが予定されている。本プログラムで進められてきたΓ型教育の定着・発展が期待される。